

環境省が実施した「第1回自然環境保全基礎調査」、「第2回自然環境保全基礎調査」によると、名護市における貴重な動物種の分布状況は図-3.1.5.25～図-3.1.5.26に示すとおりとなっています。

また、環境省が実施した「第3回自然環境保全基礎調査」、「第4回自然環境保全基礎調査」によると、名護市及び宜野座村において確認された陸上動物は、表-3.1.5.26に示すとおり哺乳類が4種、両生類が9種、爬虫類が8種、昆虫類が86種、マキガイが13種の合計120種が確認されています。

なお、表-3.1.5.27に示すとおり「名護市天然記念物調査報告、1999年3月、名護市教育委員会」によると、名護市では、哺乳類12種、鳥類230種、爬虫類26種、両生類14種、昆虫類408種が確認されています。

表-3.1.5.26 名護市及び宜野座村で確認された陸上動物

No.	綱名	目名	科名	種数	No.	綱名	目名	科名	種数		
1	哺乳類	ウシ	イノシシ	1	24	昆虫類	チョウ	アゲハチョウ	9		
2		コウモリ	キクガシラコウモリ	1	25			シジミチョウ	8		
3		ネコ	イヌ	1	26			シロチョウ	6		
4			ネコ	1	27			ジャノメチョウ	4		
5	両生類	カエル	アオガエル	3	28			セセリチョウ	10		
6			アカガエル	2	29			タテハチョウ	13		
7			アマガエル	1	30			テングチョウ	1		
8			ジムグリガエル	1	31			マダラチョウ	6		
9		サンショウウオ	イモリ	2	32			セミ	セミ	8	
10	爬虫類	トカゲ	カナヘビ	1	33			コウチュウ	ハンミョウ	1	
11			キノボリトカゲ	1	34			マキガイ	原始腹足	ゴマオカタニシ	1
12			トカゲ	2	35				柄眼	アフリカマイマイ	1
13			ヤモリ	3	36	オカモノアラガイ	1				
14			ヘビ	1	37	オナジマイマイ	2				
15	昆虫類	トンボ	イトトンボ	3	38	キセルガイ	4				
16			エゾトンボ	2	39	ニッポンマイマイ	2				
17			オニヤンマ	1	40	ノミガイ	1				
18			カワトンボ	1	41	ヒラベッコウガイ	1				
19			サナエトンボ	2	計	5綱	12目	41科	120種		
20			トンボ	8							
21			モノサシトンボ	1							
22			ヤマイトトンボ	1							
23			ヤンマ	1							

資料1：「第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWebページ

2：「第4回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWebページ

表-3. 1. 5. 27 名護市で確認された陸上動物

綱名	目名	科名	種類数	綱名	目名	科名	種類数	綱名	目名	科名	種類数	綱名	目名	科名	種類数			
哺乳類	モグラ	トガリネズミ	2	鳥類	ツバメ	メジロ	1	昆虫	直翅	イナゴ	5	昆虫	鱗翅	タテハチョウ	13			
	コウモリ	オオコウモリ	1		メジロ	6	ナナフシ		コブナナフシ	1	鱗翅		テングチョウ	1	鱗翅	シジミチョウ	9	
		キクガシラコウモリ	1		アトリ	7			トガリナナフシ	1			ミズアブ	1				
		ヒナコウモリ	1		ハタオリドリ	2			トビナナフシ	1			ムシヒキアブ	4				
	ネズミ	ネズミ	5		カエデチョウ	2	ハサミムシ		ネッタイハサミムシ	1	ツリアブ		1	ハナアブ	7			
	ネコ	ジャコウネコ	1		ムクドリ	5	チャタテムシ		チャタテムシ	1	ショウジョウバエ		1	イエハエ	1			
	ウシ	イノシシ	1		オウチュウ	1	半翅		ツチカメムシ	1	クロバエ		3	ニクバエ	1			
鳥類	カイツブリ	カイツブリ	4	カラス	3	スマガメ	4	ツノカメムシ	1	ハシカメムシ	9	鞘翅	ハンミョウ	2				
	ミズナギドリ	ミズナギドリ	2	爬虫類	カメ	スッポン	1	ハリカメムシ	2	ナガカメムシ	2	鱗翅	オサムシ	4				
	ペリカン	ネッタイチョウ	1	トカゲ	ヤモリ	4	オオホシカメムシ	1	アメンボ	3	マツモムシ	2	鞘翅	コツゲンゴロウ	1			
		カツオドリ	2		トカゲモドキ	1	ホシカメムシ	1	ミズムシ	1	ガムシ	1	鞘翅	ゲンゴロウ	3			
		ウ	2		キノボリトカゲ	1	サシカメムシ	3	セミ	8	シデムシ	1	鞘翅	ミズスマシ	2			
	コウノトリ	サギ	14	トカゲ	3	ナミヘビ	4	ハゴロモ	2	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ガムシ	1		
		コウノトリ	1	カナヘビ	1	コブラ	2	ハゴロモ	2	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	シデムシ	1		
		トキ	1	メクラヘビ	1	クサリヘビ	4	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ハネカクシ	1		
	カモ	カモ	22	両生類	有尾	イモリ	2	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	クワガタムシ	3		
	タカ	タカ	7	無尾	アマガエル	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	コガネムシ	18	
		ハヤブサ	3	トノボ	イトトンボ	3	アカガエル	7	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	タマムシ	3	
	ツル	ミフウズラ	1	トノボ	イトトンボ	3	アマガエル	3	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	コメツキムシ	3	
		クイナ	6	トノボ	モノサシトンボ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ホタル	5	
		レンカク	1	トノボ	ヤマイトトンボ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ジョウカイボン	1	
		タマシギ	1	トノボ	カワトンボ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ベニボタル	2	
		チドリ	10	トノボ	サナエトンボ	3	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	カッコウムシ	1	
		シギ	32	トノボ	オニヤンマ	2	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	コメツキモドキ	1	
		セイタカシギ	2	トノボ	ヤンマ	5	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	テントウムシ	3	
		ヒレアシシギ	1	トノボ	ヤマトンボ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ゴミムシダマシ	1	
		ツバメチドリ	1	トノボ	エソトンボ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	アリモドキ	1	
		トウゾクカモメ	1	トノボ	トンボ	12	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	カミキリモドキ	1	
	カモメ	15	トノボ	ゴキブリ	オガサワラゴキブリ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	カミキリムシ	9	
	ハト	ハト	5	トノボ	オオゴキブリ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ハムシ	8	
	カッコウ	カッコウ	1	トノボ	ゴキブリ	ゴキブリ	2	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ゾウムシ	2
		フクロウ	4	トノボ	ゴキブリ	マダラゴキブリ	2	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	オサゾウムシ	3
	ヨタカ	ヨタカ	1	トノボ	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	3	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ヒメバチ	3
		アマツバメ	アマツバメ	3	トノボ	カマキリ	6	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	オナガアシブトコバチ	1
	ブッポウソウ	カワセミ	2	トノボ	シロアリ	ミノガシラシロアリ	2	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ツチバチ	4
		ヤツガシラ	1	トノボ	直翅	カマドウマ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	アリ	10
	キツツキ	キツツキ	2	トノボ	直翅	コロギス	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ベッコウバチ	2
		スズメ	ヤイロチョウ	1	トノボ	直翅	キリギリス	10	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	スズメバチ
	ツバメ	ツバメ	5	トノボ	直翅	コオロギ	11	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ドロバチ	3
		セキレイ	10	トノボ	直翅	ケラ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	アナバチ	5
		サンショウクイ	1	トノボ	直翅	ノミバッタ	1	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ケブカハナバチ	4
		ヒヨドリ	3	トノボ	直翅	ヒシバッタ	3	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ミツバチ	1
		モズ	3	トノボ	直翅	オンパバッタ	2	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	シラミ	1
		レンジャク	1	トノボ	直翅	バッタ	8	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅	ヒトジラミ	1
		ツグミ	13	トノボ	直翅	バッタ	8	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅		
		ウグイス	9	トノボ	直翅	バッタ	8	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅		
		ヒタキ	3	トノボ	直翅	バッタ	8	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅		
		カササギヒタキ	1	トノボ	直翅	バッタ	8	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅		
		シジュウカラ	2	トノボ	直翅	バッタ	8	アマガエル	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	アザミウマ	1	鞘翅		

資料：「名護市天然記念物シリーズ・5 名護市の自然 名護市動植物総合調査報告書」2003年3月、名護市教育委員会

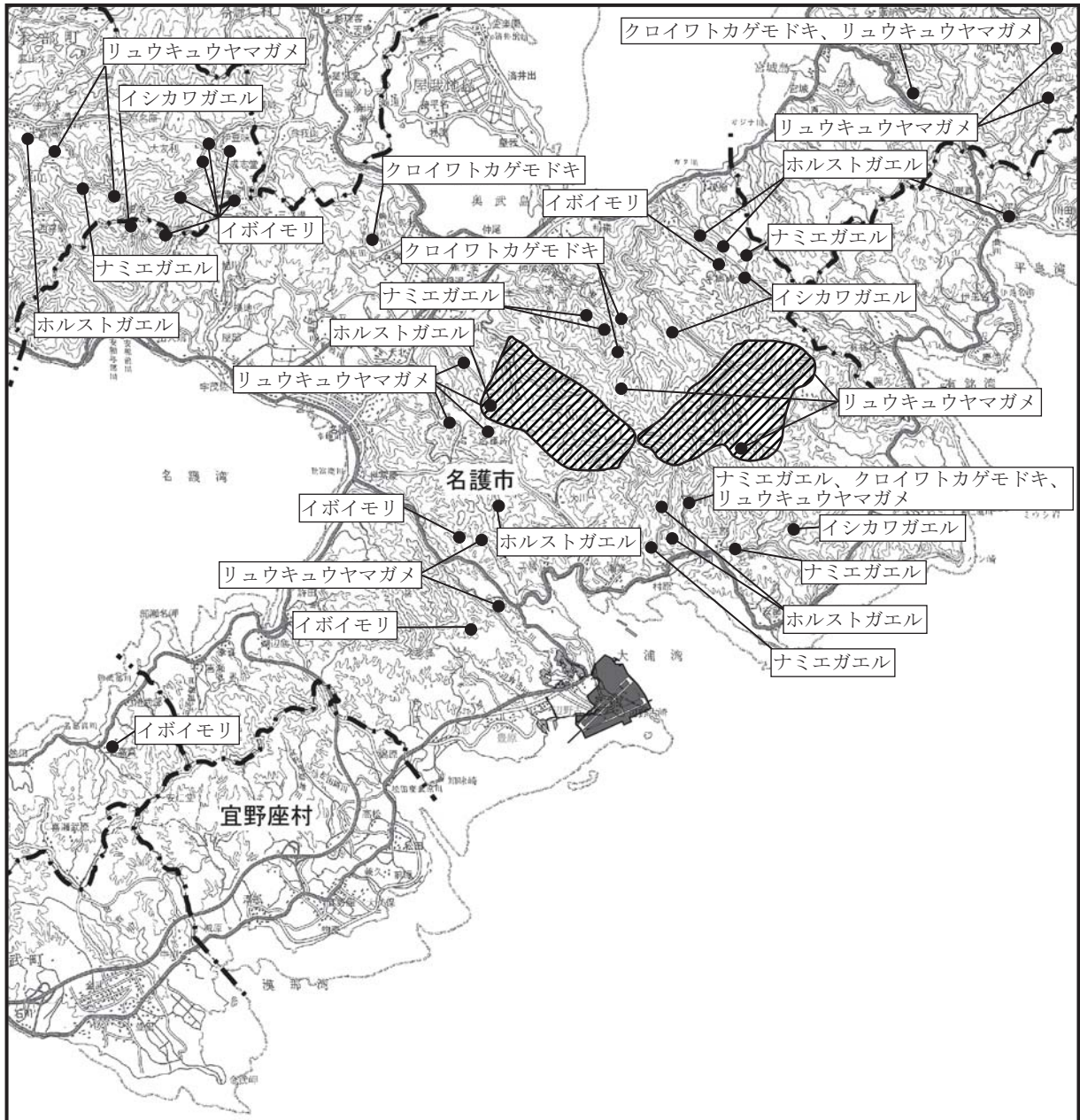




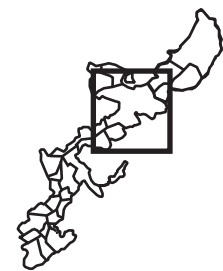


図-3. 1. 5. 25 貴重な動物種の分布状況(両生類・爬虫類)

-  : 代替施設
-  : リュウキュウヤマガメ
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界



資料1 : 「第1回自然環境保全基礎調査 沖縄県のすぐれた自然図」
 昭和51年、環境庁
 2 : 「第2回自然環境保全基礎調査 沖縄県動植物分布図」
 昭和56年、環境庁

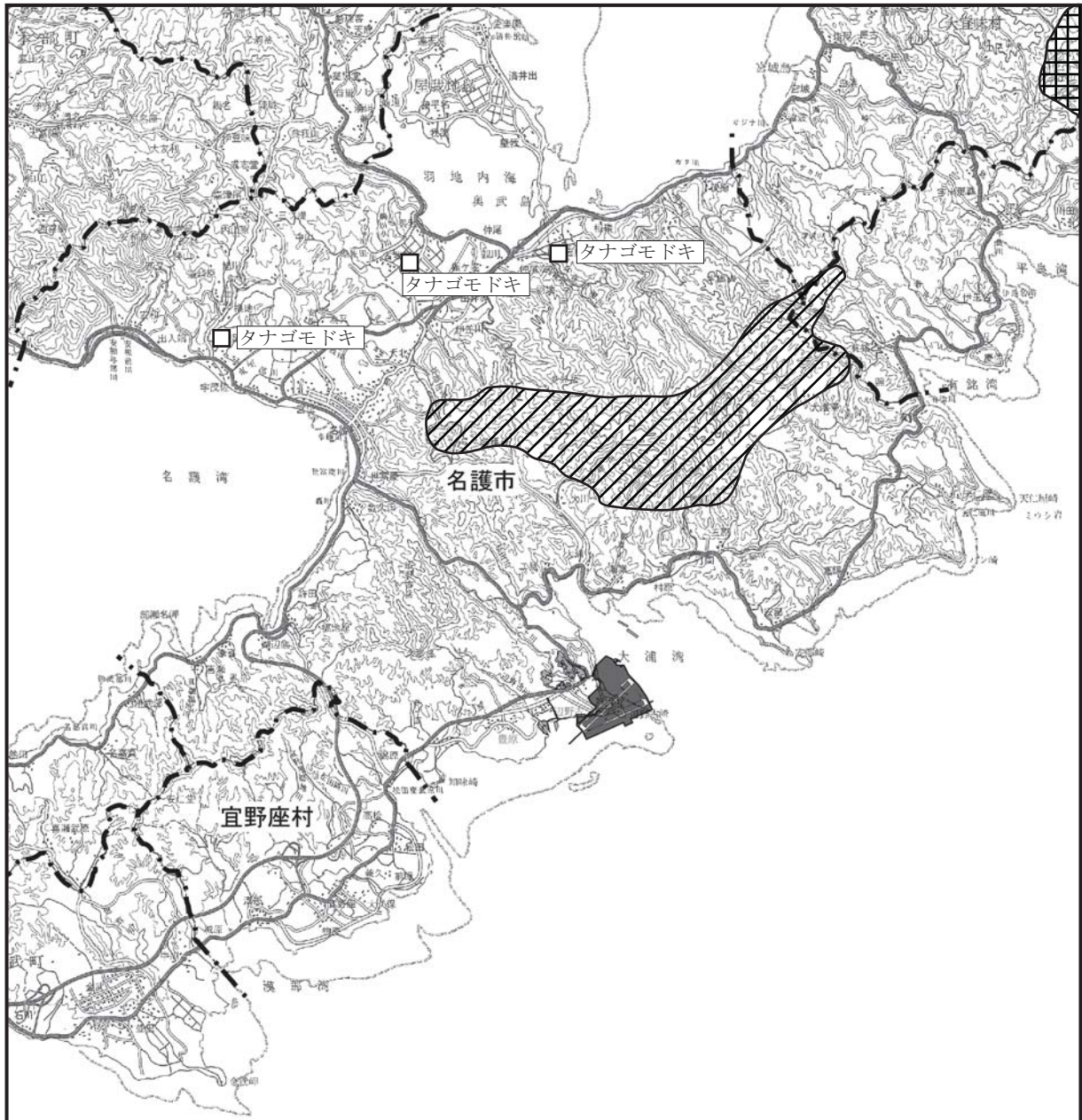
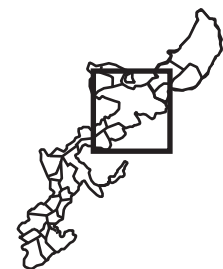


図-3.1.5.26 貴重な動物種の分布状況
(哺乳類・鳥類・魚類)

- : 代替施設
- : ケナガネズミ
- : リュウキュウカラスバト
- : タナゴモドキ
- : 市町村界



資料1 : 「第1回自然環境保全基礎調査 沖縄県すぐれた自然図」
昭和51年、環境庁

2 : 「第2回自然環境保全基礎調査 沖縄県動植物分布図」
昭和56年、環境庁

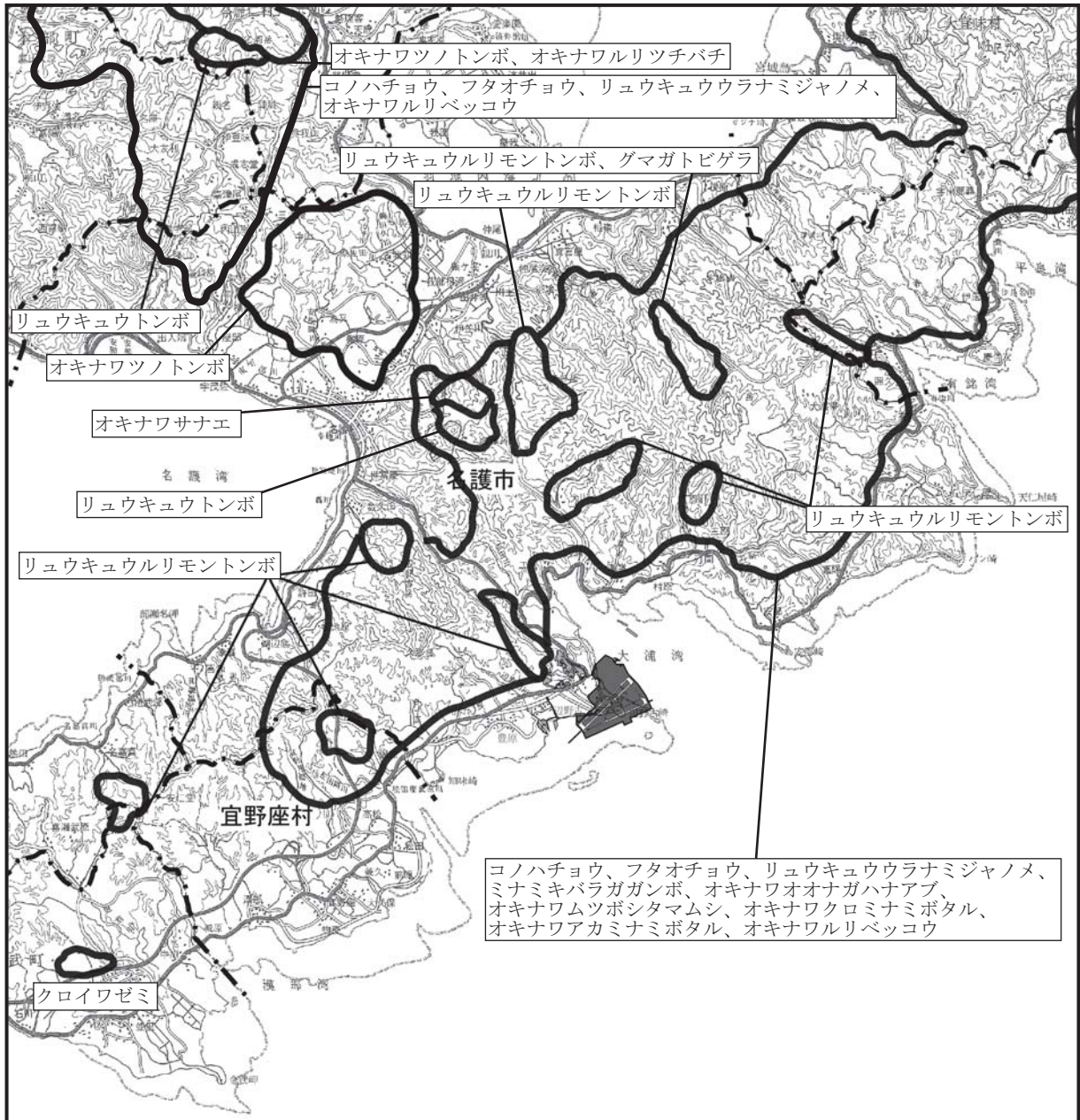



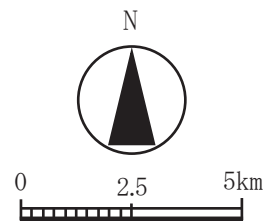
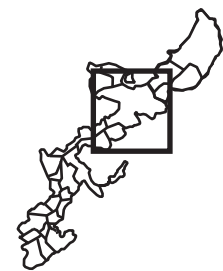


図-3.1.5.27 貴重な動物種の分布状況(昆虫類)

-  : 代替施設
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界



資料：「第2回自然環境保全基礎調査 沖縄県動植物分布図」昭和56年、環境庁

環境省が実施した「第3回自然環境保全基礎調査」、「第4回自然環境保全基礎調査」によると、名護市及び宜野座村において確認された水生生物は、表-3.1.5.28に示すとおり硬骨魚が18種、マキガイが14種の合計32種が確認されています。

また、表-3.1.5.29に示すとおり「名護市天然記念物調査報告、2003年3月、名護市教育委員会」によると、名護市辺野古沿岸域に最も近い辺野古川において水生生物調査が行われており、30種が確認されています。

表-3.1.5.28 名護市及び宜野座村で確認された水生生物

No.	綱名	目名	科名	種数	
1	硬骨魚	コイ	コイ	1	
2			ドジョウ	1	
3		スズキ	カワスズメ	1	
4			ゴクラクギョ	1	
5			ハゼ	10	
6			ボラ	1	
7			ユゴイ	1	
8		ダツ	カダヤシ	1	
9			メダカ	1	
10		マキガイ	原始腹足	アマオブネ	8
11			中腹足	カワニナ	1
12				トウガタカワニナ	1
13			原始有肺	オカミミガイ	4
計	2綱	6目	13科	32種	

資料1：「第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWebページ

2：「第4回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWebページ

表-3.1.5.29 辺野古川で確認された水生生物

No.	綱名	科名	和名	No.	綱名	科名	和名		
1	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	17	硬骨魚	ハゼ	テンジクカワアナゴ		
2		ヨウジウオ	テングヨウジ	18			ナガノゴリ		
3		ボラ	イッセンヨウジ	19			ナミハゼ		
4			ボラ	ボラ			20	スナゴハゼ	
5			セスジボラ	21			ヒナハゼ		
6		コボラ	22	ゴクラクハゼ					
7		ユゴイ	ユゴイ	23			アヤヨシノボリ		
8		アジ	ギンガメアジ	24			ミミズハゼ		
9		ヒイラギ	セイタカヒイラギ	25			ミツボシゴマハゼ		
10		クロサギ	クロサギ	26			ミナミトビハゼ		
11		フエダイ	オキフエダイ	27			フグ	クサフグ	
12			ニセクロホシフエダイ	28			甲殻	オカヤドカリ	オカヤドカリ
13		シマイサキ	コトヒキ	29					ナキオカヤドカリ
14		タイ	ミナミクロダイ	30					ムラサキオカヤドカリ
15		カワスズメ	モザンビークティラピア	合計			2綱	15科	30種
16		アイゴ	ゴマアイゴ						

資料：「名護市天然記念物シリーズ・5 名護市の自然 名護市動植物総合調査報告書」2003年3月、名護市教育委員会

2) 名護市辺野古沿岸域近傍の状況






那覇防衛施設局が平成 9 年に名護市辺野古沿岸域近傍で実施した維管束植物、付着藻類、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物、昆虫類の調査概要は表-3.1.5.30 に示すとおりとなっています。

表-3.1.5.30 陸上動植物の調査概要

調査項目	調査方法	調査期間	調査地点
維管束植物	踏査及び標本採集による種の確認	平成9年9月2～3日 10月1～4日、7日	図-3.1.5.28に示す範囲
付着藻類	目視及び標本採集による種の確認	平成9年9月4～6日 10月2～3日	
哺乳類	踏査及びトラップによる種の確認	平成9年8月26～27日 10月2～3日	
鳥類	定点観測による目視及び鳴き声などから種の確認	平成9年8月30～31日 10月12～14日	
両生類	踏査による種の確認	平成9年8月26～27日	
爬虫類		10月2～3日	
魚類	タモ網、投網及び見つけ採りによる種の確認	平成9年8月25～26日 10月6～7日	
底生動物 (大型甲殻類)	ランダム採集及び見つけ採りによる種の確認	平成9年8月25～26日 10月6～7日	
昆虫類	見つけ採り、トラップ等による採集及び目視、鳴き声による種の確認	平成9年9月2～5日 10月1～4日	



図-3.1.5.28 動植物調査範囲

- | | | | |
|---|---|---|----------|
|  | : 代替施設 |  | : 作業ヤード等 |
|  | : 鳥類定点観察地点(基地外) | | |
|  | : 鳥類定点観察地点(基地内) | | |
|  | : 維管束植物、付着藻類、哺乳類、両生・爬虫類、魚類、底生動物(大型甲殻類)、昆虫類の調査範囲 | | |



資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

- (a) 維管束植物
 a) 植物相及び植生の状況

表-3.1.5.31に示すとおり、維管束植物は、シダ植物14科26種、種子植物82科240種の合計96科266種が確認されています。

また、図-3.1.5.29に示すとおり、調査域で占有面積が大きいのは人工裸地と芝生で、占有率はいずれも約30%で、ついでリュウキュウマツ林が約18%となっています。

表-3.1.5.31 維管束植物の出現種

門	亜門	綱	亜綱
シダ植物 14科22属26種			
種子植物 82科185属240種	裸子植物 2科2属2種		
	被子植物 80科183属238種	双子葉植物 66科137属168種	古生花被区 43科80属104種
			後生花被区 23科57属64種
		単子葉植物 14科46属70種	
全種 96科207属266種			

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

- b) 特記すべき植物群落及び植物種

絶滅のおそれのある種を示した「レッドデータ」のうち、沖縄県に生育する維管束植物を対象としたものには、日本自然保護協会(1989年)「我が国における保護上重要な植物種の現状」(日本自然保護協会版レッドデータブック)、環境省(2012年)「第4次レッドリスト 植物I(維管束植物)」(以後、環境省版RLと略)、沖縄県(2006年)「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(菌類・植物編)ーレッドデータおきなわー」(以後、沖縄県版RDBと略)、の3つが公表されています。このうち本調査で確認された貴重種としては、表-3.1.5.32に示すとおり「天然記念物」及び「環境省版RL」と「沖縄県版RDB」の掲載種としました。それによるとマツバラ等14種が確認されています。

表-3. 1. 5. 32 特記すべき維管束植物

種	天然記念物	環境省版RL	沖縄県版RDB
マツバラシ		NT	
エダウチクジャク		NT	
ハンゲショウ			NT
テンノウメ		VU	VU
シマカナメモチ		NT	
ハリツルマサキ		NT	
ミズガンピ			NT
ウコンイソマツ		VU	EN
オキナワギク		VU	VU
モクビャクコウ		VU	VU
オキナワヒメナキリ		NT	NT
タマハリイ			NT
ヤリテンツキ		NT	
ヒメヤブラン			EN

注1：環境省版RL「第4次レッドリスト 植物I（維管束植物）」2012年8月、環境省
 VU→絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。）
 NT→準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）
 注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（菌類・植物編）—レッドデータおきなわ—」2006年2月、沖縄県
 EN→絶滅危惧IB類（沖縄県では絶滅の危機に瀕している種—沖縄県ではIA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。）
 VU→絶滅危惧II類（沖縄県では絶滅の危機が増大している種—沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが考えられる。）
 NT→絶滅危惧（沖縄県では存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。）
 資料：「シュワブ沖縄地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(b) 付着藻類

表-3. 1. 5. 33に示すとおり、紅藻綱ウミゾウメン目2種、緑藻綱シオグサ目3種、ホシミドロ目1種の計2綱3目3科6種が確認されています。なお、特記すべき付着藻類は調査地域では確認されていません。

表-3. 1. 5. 33 付着藻類の出現状況

綱	目	科	種
紅藻	ウミゾウメン	—	ウミゾウメン目の一種 (チスジノリ科のチャントランシア期の藻体あるいはオオジュイネラ属の一種)
			紅藻類
緑藻	シオグサ	シオグサ	シオグサ属の一種
			ネダシグサ属の数種
			アオミソウ属の一種
	ホシミドロ	ホシミドロ	アオミドロ属の一種

資料：「シュワブ沖縄地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

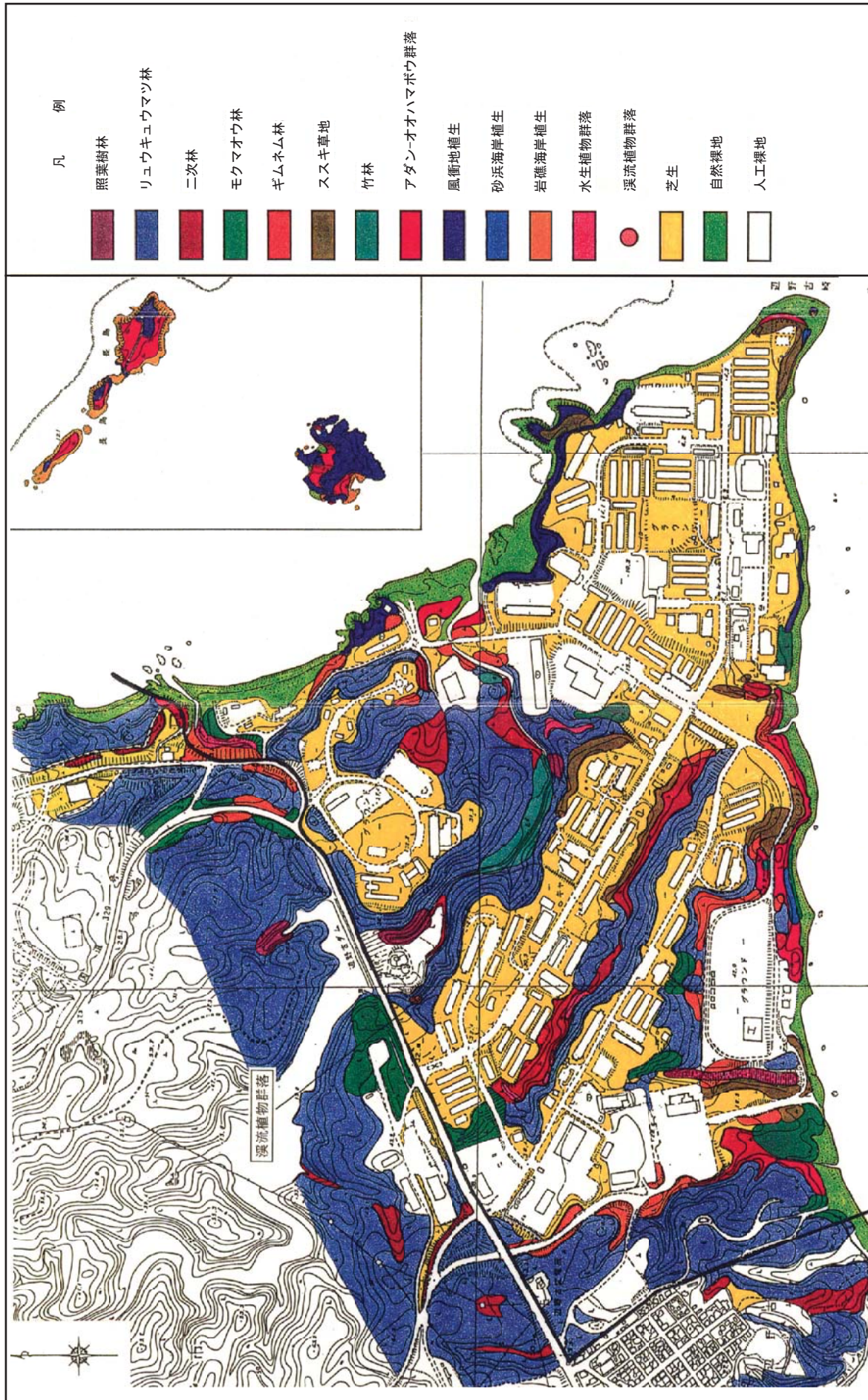


図-3.1.5.29 現存植生図

資料：「シユワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(c) 哺乳類

表-3.1.5.34に示すとおり、モグラ目1種、コウモリ目1種、ネズミ目2種の計3目3科4種が確認されています。

なお、表-3.1.5.35に示すとおり、特記すべき哺乳類として、リュウキュウジャコウネズミ、オリオオコウモリ、オキナワハツカネズミの3種が確認されています。

表-3.1.5.34 哺乳類の出現状況

綱	目	科	種
哺乳類	モグラ	トガリネズミ	リュウキュウジャコウネズミ
	コウモリ	オオコウモリ	オリオオコウモリ
	ネズミ	ネズミ	オキナワハツカネズミ
			クマネズミ

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.35 特記すべき哺乳類

種	天然記念物	環境省版RL	沖縄県版RDB
リュウキュウジャコウネズミ			DD
オリオオコウモリ			NT
オキナワハツカネズミ			DD

注1：環境省版RL「第4次レッドリスト 哺乳類」2012年8月、環境省

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)ーレッドデータおきなわー」2005年3月、沖縄県

NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種ー現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

DD→情報不足(沖縄県では評価するだけの情報が不足している種ー環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の категорияに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(d) 鳥類

表-3.1.5.36に示すとおり、カイツブリ目1種、コウノトリ目7種、ワシタカ目6種、ツル目2種、チドリ目14種、ハト目3種、フクロウ目2種、ブッポウソウ目3種、キツキ目1種、スズメ目17種の計10目22科56種が確認されています。

なお、表-3.1.5.37に示すとおり、特記すべき鳥類として、カラスバトなど18種の生息が確認されています。

表-3. 1. 5. 36 鳥類の出現種

綱	目	科	種	綱	目	科	種	
鳥類	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	鳥類	チドリ	カモメ	ベニアジサシ エリグロアジサシ	
	コウノトリ	サギ	ゴイサギ		ハト	ハト	カラスバト	
			アマサギ				キジバト	
			ダイサギ				ズアカアオバト	
			チュウサギ				リュウキュウコノハズク	
			コサギ				アオバズク	
			クロサギ				ヤマシヨウビン	
			アオサギ				アカシヨウビン	
	ワシタカ	ワシタカ	ミサゴ		ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	
			ツミ(リュウキュウツミ)					
			サシバ					
		ハヤブサ	ハヤブサ			キツツキ	コゲラ	
			チゴハヤブサ					
	チヨウゲンボウ	ツバメ	ツバメ					
	ツル	クイナ	シロハラクイナ		セキレイ	キセキレイ		
			バン			ハクセキレイ		
	チドリ	チドリ	オオメダイチドリ		スズメ	サンシヨウクイ	リュウキュウサンシヨウクイ	
			ムナグロ			ヒヨドリ	シロガシラ	
			ダイゼン			ヒヨドリ	ヒヨドリ	
		シギ	シギ			キョウジョシギ	ヒタキ	イソヒヨドリ
						トウネン		ウグイス
						タカブシギ		セッカ
						キアシシギ		エゾビタキ
						イソシギ		サンコウチュウ
						ソリハシシギ	シジュウカラ	ヤマガラ
						ダイシャクシギ	シジュウカラ	
						チュウシャクシギ	メジロ	メジロ
						セイタカシギ	ハタオドリ	スズメ
						セイタカシギ	セイトカシギ	カラス

注：現在、コウノトリ目の7種はペリカン目に、ワシタカ目の6種の内、タカワシ科の3種はタカ目に、ハヤブサ科の3種はハヤブサ目に分類されており、タカワシ科の3種の内、「ミサゴ」はミサゴ科に、残り2種はタカ科に、ヒタキ科の5種の内、「ウグイス」はウグイス科に、「セッカ」はセッカ科に、「サンコウチュウ」はカササギヒタキ科に、残り2種がヒタキ科に、ハタオドリ科の「スズメ」はスズメ科に分類されています。
資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3. 1. 5. 37 特記すべき鳥類

種名	天然記念物	環境省版 RL	沖縄県版 RDB
カイツブリ			NT
チュウサギ		NT	NT
ミサゴ		NT	VU
サシバ		VU	
ハヤブサ		VU	VU
タカブシギ		VU	
セイタカシギ		VU	VU
ベニアジサシ		VU	NT
エリグロアジサシ		VU	NT
カラスバト	国	NT	VU
リュウキュウコノハズク			NT
リュウキュウアオバズク			NT
リュウキュウアカシヨウビン			NT
カワセミ			NT
リュウキュウコゲラ			NT
リュウキュウサンシヨウクイ			NT
リュウキュウサンコウチュウ			DD
アマミヤマガラ			NT

注1：天然記念物「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)

国→国指定天然記念物

注2：環境省版RL「第4次レッドリスト 鳥類」2012年8月、環境省

VU→絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。)

NT→準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

注3：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)—レッドデータおきなわ—」2005年3月、沖縄県

VU→絶滅危惧II類(沖縄県では絶滅の危機が増大している種—沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが考えられるもの。)

NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

DD→情報不足(沖縄県では評価するだけの情報が不足している種—環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。)

資料1：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(e) 爬虫類・両生類

表-3.1.5.38に示すとおり、爬虫類はトカゲ目ヤモリ科2種、キノボリトカゲ科1種、トカゲ科2種、カナヘビ科1種、ヘビ科1種、両生類ではアカガエル科1種、アオガエル科2種、ジムグリガエル科1種の計2目8科11種が確認されています。

表-3.1.5.39に示すとおり、特記すべき爬虫類として、オキナワキノボリトカゲ、オキナワトカゲの2種が確認されています。

表-3.1.5.38 爬虫類・両生類の出現種

綱	目	科	種
爬虫類	トカゲ	ヤモリ	ミナミヤモリ
			ホオグロヤモリ
		キノボリトカゲ	オキナワキノボリトカゲ
		トカゲ	オキナワトカゲ
		カナヘビ	アオカナヘビ
		ヘビ	アカマタ
両生類	カエル	アカガエル	ヌマガエル
		アオガエル	ニホンカジガエル
			シロアゴガエル
		ジムグリガエル	ヒメアマガエル

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.39 特記すべき爬虫類

種	天然記念物	環境省版RL	沖縄県版RDB
オキナワキノボリトカゲ		VU	VU
オキナワトカゲ		VU	NT

注1：環境省版RL「第4次レッドリスト 爬虫類、両生類」2012年8月、環境省
 VU→絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。)
 NT→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)—レッドデータおきなわ—」2005年3月、沖縄県
 VU→絶滅危惧II類(沖縄県では絶滅の危機が増大している種—沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが考えられるもの。)
 NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(f) 魚類

表-3.1.5.40に示すとおり、ウナギ科1種、ニシン科1種、メダカ科1種、カダヤシ科1種、ボラ科2種、アジ科1種、クロサギ科2種、シマイサキ科1種、ハゼ科12種、フグ科2種、タウナギ科1種の計7目11科25種が確認されています。

表-3.1.5.41に示すとおり、特記すべき魚類として、メダカ、ルリボウズハゼ、クサフグ、タウナギの4種が確認されています。

表-3.1.5.40 魚類の出現種

綱	目	科	種
魚類	ウナギ	ウナギ	ウナギ
	ニシン	ニシン	リュウキュウドロクイ
	ダツ	メダカ	メダカ
	カダヤシ	カダヤシ	グッピー
	スズキ	ボラ	ボラ
			コボラ
		アジ	ロウニンアジ
	クロサギ		イトヒキサギ
			ナガサギ
	シマイサキ		コトヒキ
	ハゼ		チチブモドキ
			テンジクカワアナゴ
			クロミナミハゼ
			ヒナハゼ
			ゴクラクハゼ
			シマヨシノボリ
			クロヨシノボリ
			アヤヨシノボリ
			ナガノゴリ
			ナンヨウボウズハゼ
			ルリボウズハゼ
			ミナミトビハゼ
	フグ	フグ	クサフグ
			オキナワフグ
	タウナギ	タウナギ	タウナギ

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.41 特記すべき魚類

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
メダカ		VU	CR
ルリボウズハゼ		EN	EN
クサフグ			LP
タウナギ		LP	EN

注1：環境省版RDB「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—汽水・淡水魚類—」2003年、環境省
 EN→絶滅危惧IB類(絶滅の危機に瀕している種—IA類ほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
 VU→絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもちたしした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。)
 LP→絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
 注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)—レッドデータおきなわ—」2005年3月、沖縄県
 CR→絶滅危惧IA類(沖縄県では絶滅の危機に瀕している種—沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。)
 EN→絶滅危惧IB類(沖縄県では絶滅の危機に瀕している種—沖縄県ではIA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。)
 LP→絶滅のおそれのある地域個体群(沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(g) 底生動物(大型甲殻類)

表-3.1.5.42に示すとおり、ヌマエビ科3種、テナガエビ科5種、オカヤドカリ科3種、ワタリガニ科1種、イワガニ科8種の計1目5科20種が確認されています。

なお、表-3.1.5.43に示すとおり、特記すべき底生動物として、ナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、オカヤドカリの3種が確認されています。

表-3.1.5.42 底生動物(大型甲殻類)の出現状況

綱	目	科	種
甲殻類	十脚	ヌマエビ	ミゾレヌマエビ
			トゲナシヌマエビ
			ヒメヌマエビ
		テナガエビ	イッテンコテナガエビ
			ザラテナガエビ
			ヒラテナガエビ
			ミナミテナガエビ
			コンジテンテナガエビ
		オカヤドカリ	ナキオカヤドカリ
			ムラサキオカヤドカリ
			オカヤドカリ
		ワタリガニ	ガザミ sp.
		イワガニ	オオヒライソガニ
			モクズガニ
			クロベンケイガニ
			カクベンケイガニ
			ユビアカベンケイガニ
			ベンケイガニ
			フタバカクガニ
			ミナミアシハラガニ

注：イワガニ科の8種は、現在、「オオヒライソガニ」・「モクズガニ」の2種はモクズガニ科、「クロベンケイガニ」～「ミナミアシハラガニ」の6種はベンケイガニ科に分類されています。

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.43 特記すべき底生動物(大型甲殻類)

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
ナキオカヤドカリ	国		
ムラサキオカヤドカリ	国		
オカヤドカリ	国		

注：天然記念物「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)

国→国指定天然記念物

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(h) 昆虫類

表-3.1.5.44に示すとおり、12目97科331種を確認しています。

また、表-3.1.5.45に示すとおり、特記すべき昆虫類としてオキナワマツモムシ、イワカワシジミが確認されています。

表-3.1.5.44 昆虫類の出現種

綱	目	科	種数	綱	目	科	種数	綱	目	科	種数	
昆虫類	トンボ	イトトンボ科	4	昆虫類	カメムシ	オサヨコバイ科	1	昆虫類	コウチュウ	ゴミムシダマシ科	10	
		モノサシトンボ科	1			ヨコバイ科	1			カミキリムシ科	7	
		カワトンボ科	1			アメンボ科	1			ハムシ科	6	
		サナエトンボ科	1			マツモムシ科	2			ヒゲナガゾウムシ科	2	
		ヤンマ科	2			サシガメ科	3			ゾウムシ科	3	
		トンボ科	10			ナガカメムシ科	7		ハチ目	アリ科	16	
		ゴキブリ	オガサワラゴキブリ科			1	ホシカメムシ科			1	ドロバチ科	1
			チャバネゴキブリ科			4	オオホシカメムシ科			2	スズメバチ科	3
		カマキリ	カマキリ科			2	ホソヘリカメムシ科			4	コシブトハナバチ科	3
							ミノガシラシロアリ科			1	ヘリカメムシ科	5
	バッタ	コオロギ科	8			マルカメムシ科	1	ミズアブ科	2			
		クサヒバリ科	4			ツチカメムシ科	2	ムシヒキアブ科	1			
		マツムシ科	1			カメムシ科	10	ハナアブ科	1			
		クマズムシ科	1			エビイロカメムシ科	1	クロバエ科	2			
		カネタタキ科	4			ツノカメムシ科	1	チョウ	ハマキガ科	1		
		キリギリス科	4			コウチュウ	ハンミョウ科		1	ハマキモドキガ科	1	
		オンブバッタ科	2				オサムシ科		5	イラガ科	1	
		バッタ科	11				ゲンゴロウ科		4	マドガ科	1	
		ヒシバッタ科	2				ガムシ科		2	メイガ科	16	
		ナナフシ	ナナフシ科				1		ハネカクシ科	3	セセリチョウ科	2
	オオハサミムシ科		1		コケムシ科		1		アゲハチョウ科	7		
	ハサミムシ	ネッタイハサミムシ科	1		マルハナノミ科		1		シロチョウ科	6		
		クギヌキハサミムシ科	1		コガネムシ科		7		シジミチョウ科	5		
		ウンカ科	1		ヒメドロムシ科		1		マダラチョウ科	13		
	カメムシ	テングスケバ科	2		チビドロムシ科		1	ジャノメチョウ科	2			
		マルウンカ科	1		タマムシ科	1	ジャクガ科	11				
		アオバハゴロモ科	2		ホタル科	1	カレハガ科	1				
		ハゴロモモドキ科	1		ケシクスイ科	3	スズメガ科	2				
		アシブトウンカ科	1		コメツキモドキ科	1	ヒトリガ科	6				
		ハゴロモ科	1		テントウムシ科	6	ヒトリモドキガ科	2				
		セミ科	3		ハナノミ科	1	ヤガ科	30				
		アワフキムシ科	1		アリモドキ科	2						
		ミミズク科	1		チビキカワムシ科	1						

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.45 特記すべき昆虫類

種	天然記念物	環境省版RL	沖縄県版RDB
オキナワマツモムシ		NT	NT
イワカワシジミ		NT	

注1：環境省版RL「第4次レッドリスト 昆虫類」2012年8月、環境省
NT→準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)ーレッドデータおきなわー」2005年3月、沖縄県
NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種ー現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(3) 生態系

1) 陸域

名護市辺野古沿岸域及びその周辺の陸域部には、内陸部の山地丘陵地から海岸部にかけて多くの河川が流れており、ヤブツバキクラス域自然植生のリュウキュウアオキースダジイ群集が広範囲に分布しています。このように陸域部には、河川等の水系やイタジイ林及びリュウキュウマツ林等から構成される基盤環境を中心とした自然環境が形成されており、そこを生活の場とする生物のうち、猛禽類のツミを食物連鎖の上位とした生態系が形成されています。

2) 海域

名護市辺野古沿岸域及びその周辺の海域は、藻場やサンゴ礁が広く分布し、これらを中心とした環境を生活の場とする魚類やウミガメ、さらには哺乳類のジュゴン等の生息が確認されています。

海岸部はアジサシ類やオカヤドカリ類の生活の場となっており、干潟域にはヒルギ類のマングローブ林の分布やオキナワアナジャコ類が見られるなど、特有の生態系が形成されています。

このように海域では、それぞれの基盤環境を中心とした生態系が形成されています。

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観

1) 主要な眺望地点の状況

(a) 景観の状況

名護市は山と海に優れた自然景観を有し、ランドマークとなる名護岳・嘉津宇岳・安和岳・多野岳などは沖縄県海岸国定公園や鳥獣保護区、自然環境保全地域などに指定され、緑豊かな山岳景観を形成しています。

宜野座村は白い砂浜と岩場の変化に富んだ海岸線を有しています。陸域は琉球石灰岩にカルスト地形(ドリーネ・鍾乳石・石灰岩堤・天然橋等)がみられ、松田鍋川・慶武原川の河口部にはマングローブ林による亜熱帯的な景観が広がっています。また、潟原には干潟が分布しています。

なお、名護市辺野古沿岸域の近傍は、辺野古岳・久志岳を中心とする山地の裾野にある台地から名護岳・多野岳・辺野古岳・久志岳などを望むことができます。海岸部東側は山地・丘陵地が海岸まで迫る海崖で、南側は白い砂浜と岩場の海岸線となっています。

また、名護市辺野古沿岸域東側に位置する大浦湾に注ぐ大浦川の河口には、マングローブ林が広がり、亜熱帯的な景観を形成しています。

(b) 景観資源の指定状況

名護市辺野古沿岸域周辺は、図-3.1.6.1に示すように「第3回自然環境保全基礎調査(1989)環境庁」の「視対象である自然景観の骨格をなす地形、地質及び自然景観資源として認識される自然現象」を対象とした位置、特性、眺望性、利用の状況等についての調査で、山脈・山地・高地、海蝕崖及び海成段丘がそれぞれ山地景観資源、海岸景観資源に指定されています。

なお、平島、長島は自然景観資源等の指定はされていません。

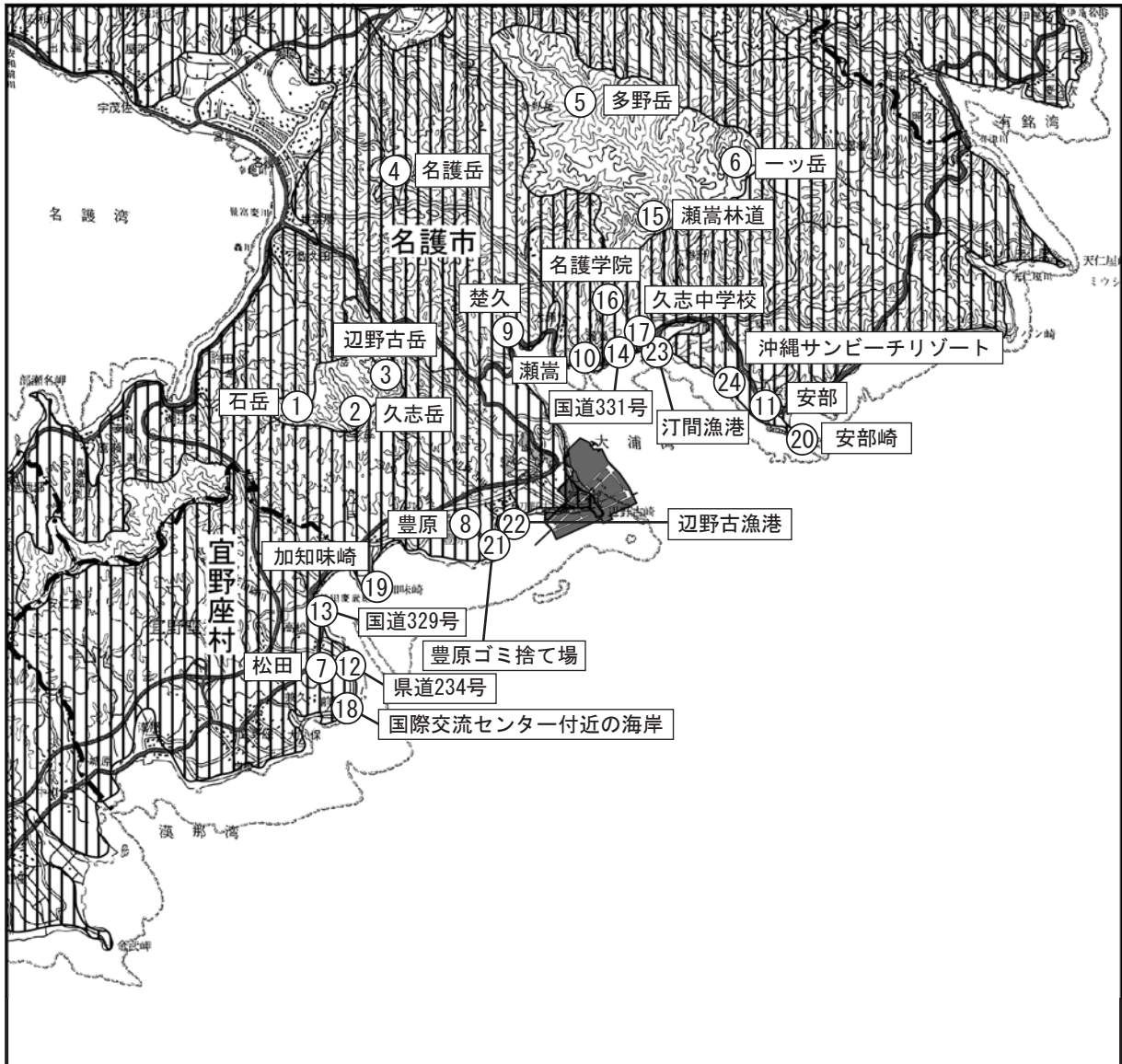





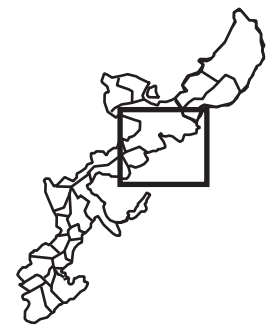


図-3.1.6.1 主要な眺望点及び景観資源

-  : 代替施設
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界
-  : 海成段丘
-  : 主要な眺望点



資料1 : 「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書(沖縄県)」
1989年、環境庁
2 : 「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

1) 主要な人と自然との触れ合い活動の場の状況

(a) 名護市辺野古沿岸域周辺の状況

名護市辺野古沿岸域周辺地域での主たる人と自然との触れ合いの活動の場は、表-3.1.6.1 及び図-3.1.6.2 に示すとおりです。

表-3.1.6.1 主たる人と自然との触れ合いの活動の場

市町村	区分	施設(名称)
名護市	観光施設	ナゴパラダイス
		ゆかり牧場・観光闘牛場
		森のガラス館
		道の駅「許田」
		ブセナ海中展望塔
		ネオパークオキナワ
	景勝地	名護城跡
	公園	21世紀の森公園
		名護中央公園・展望台
	ゴルフ場	喜瀬カントリークラブ
		カヌチャゴルフコース
		21世紀ゴルフクラブ
	スポーツ施設	名護市B&G海洋センター
		21世紀の森体育館
		名護球場
		嘉陽フライトエリア
	ビーチ	21世紀の森ビーチ
ブセナビーチ		
カヌチャビーチ		
喜瀬ビーチ		
名護市民ビーチ		
文化施設	名護博物館	
宜野座村	観光施設	かんなタラソ沖縄
		宜野座村特産品加工直売センター(未来ぎのざ)
	公園	漢那ダム湖畔公園
	ゴルフ場	宜野座カントリークラブ
	スポーツ施設	宜野座村総合グラウンド
		宜野座村野球場
	ビーチ	漢那ビーチ
文化施設	国際交流村	
	宜野座村立博物館	

資料1：「名護ガイドマップ」名護市観光協会・名護市商工観光課

2：「水と緑と太陽の里ぎのざ」宜野座村役場総務課

3：「美ら島 沖縄県観光情報ファイル 2006年版」2006年10月1日、
(財)沖縄観光コンベンションビューロー

4：「フライトエリア一覧：沖縄県」公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 Webページ

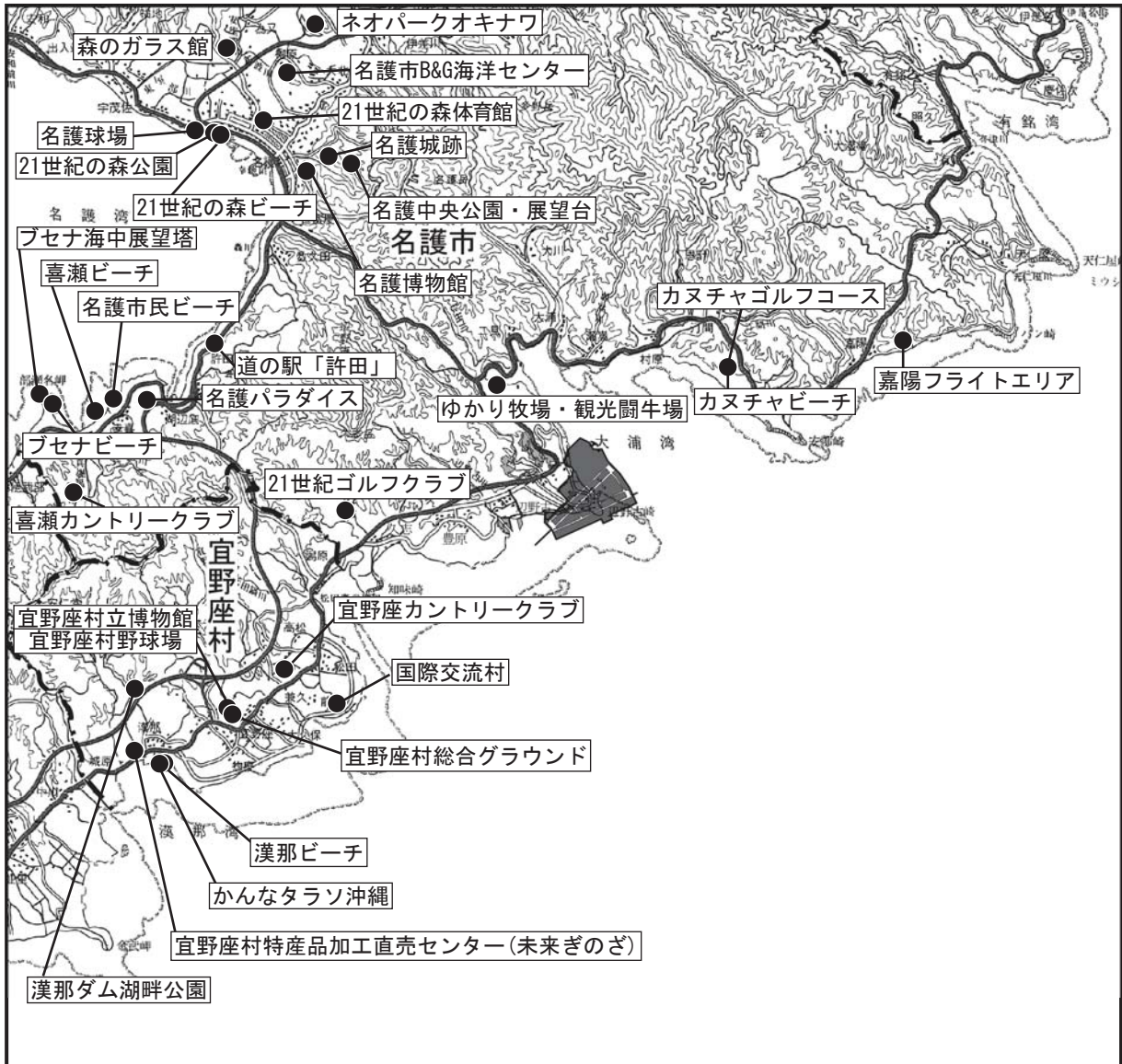




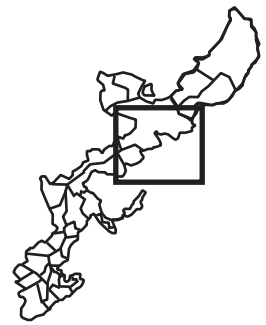


図-3.1.6.2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

-  : 代替施設
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界
-  : レクリエーション地



資料1 : 「名護ガイドマップ」名護市観光協会・名護市商工観光課
 2 : 「水と緑と太陽の里ぎのざ」宜野座村役場総務課
 3 : 「美ら島 沖縄県観光情報ファイル 2006年版」2006年10月1日
 (財)沖縄観光コンベンションビューロー
 4 : 「フライトエリア一覧：沖縄県」公益社団法人日本ハング・パラグライ
 ディング連盟 Webページ

(b) 名護市辺野古沿岸域近傍の状況

那覇防衛施設局が名護市辺野古沿岸域近傍で実施した人と自然との触れ合いの活動の場に関する調査概要は、表-3.1.6.2のとおりです。

表-3.1.6.2 人と自然との触れ合いの活動の場の調査概要

調査項目	調査地点	調査期間
人と自然との触れ合いの活動の場における利用状況	図-3.1.6.3 に示す範囲	夏季調査： 平日 平成9年8月28日(木) 休日 同年8月31日(日) 追加調査(平島及び周辺海域)： 平日 平成9年9月4日(木) 休日 同年9月23日(火) 秋季調査(平島及び周辺海域を含む)： 平日 平成9年10月3日(金) 休日 同年10月5日(日)

調査結果については、夏季の平日はキャンプ・シュワブ地域、瀬嵩地域、汀間地区、休日はキャンプ・シュワブ地域、瀬嵩地区、嘉陽地区の砂浜、海岸線が最も多く利用されています。

また、秋季の平日は安部地区、嘉陽地区の砂浜、汀間地区の海岸線、また休日はキャンプ・シュワブ地区、嘉陽地区の砂浜、それ以外の地区では海岸線が多く利用されています。

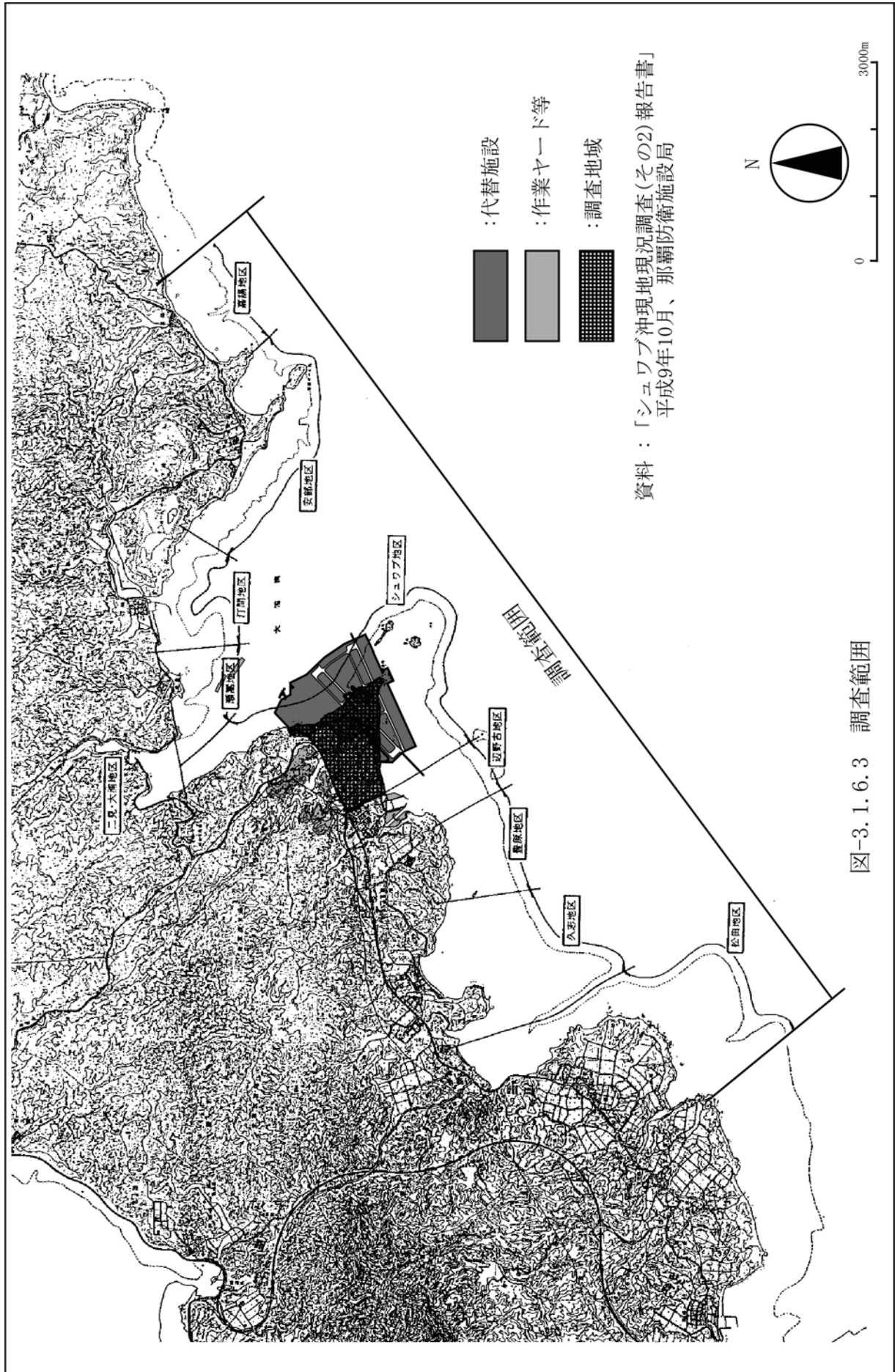


図-3.1.6.3 調査範囲